

西海ブロック水産業情報

NO. 79 (平成24年10月～12月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>記載なし</p>	<p>【有明海】[ノリ養殖] 10月16日から採苗開始。天候にも恵まれ順調に作業は進み、19日には概ね作業は終了。その後は育苗、生産とも順調に行われた。秋芽の生産枚数は約3.9億(過去5年比98%)、生産金額約45億円(過去5年比111%)、平均単価は11.40円(過去5年との差+1.29円)であった。また、当初、23日から冷凍生産が開始される予定であったが、24～25日に時化の予報が出ていたため、2日遅らせて、12月25日から冷凍生産を開始した。今のところ、概ね順調に生産が行われている。</p> <p>【豊前海】[カキ養殖] ・中部以北の漁場では、例年に比べてコレクターに付着しているカキの個体数は少ないものの、成長は平年並みでしかも身入りは良好。 ・一方、中南部以南の漁場では、垂下初期における食害の影響で収穫量は少ない。</p>	<p>【玄海】[試験研究] ・沿岸地先3カ所で、植食動物(ウニ等)の駆除および侵入防止柵、母産投入による産場回復試験を昨年度に引き続き実施中。 ・シンクロトロン光を利用してケンサイキカ平衡石の蛍光X線分析を行い、東シナ海から鳥取県沿岸における産場母や、季節群によるSr/Caの差異について解析中。 [課題放流情報] ・11月7日350mm(200尾、60mm³ト型²装着)を放流。放流効果及び漁獲実態調査を実施。 [種苗生産] ・アカウニ:9月27日、10月6、8日、11月1、8日採卵。～12月、約170万個体飼育中。 ・クロアワビ:11月7日採卵。～12月、約50万個体飼育中。 【有明】研究の動向[水産資源関係] ・タイラギ・サルボウ調査、漁獲物動向調査(市場調査)を実施。 [水産海洋・産場保全関係] ・浅海定線調査、産場環境モニタリング調査(底質、マクロベントス)、サルボウ適正生息環境調査(水質)、貝毒分析(カキ) [水産増養殖関係] ・放流アゲマキ追跡調査、アサリ・サルボウ生息量調査 ・養殖マガキの付着密度比較試験、垂下水深比較試験および長期抑制試験 ・有明海産カキ類の採苗・養殖試験 ・沖合域におけるモガイ殻散布耕耘試験の追跡調査 [その他] ・有明水産振興センターのホームページに漁況情報として、赤潮情報や漁況関連情報の公開を継続中。 [水産資源関係] ・タイラギ 10月19～26日に実施した55地点での生息状況調査の結果、成貝を確認できなかった。また、稚貝は7地点で確認されたものの、生息密度は最高で0.38個/mと低密度であった。 ・サルボウ 9月3日のシャットネラ赤潮の初認以降、9月7日から14日にかけて有明海の湾奥部のほぼ全域が貧酸素化、特に9月10日から13日にかけては、ほぼ無酸素の状態となったことから、2度目のサルボウの大量死が発生した。このため、10月上旬現在のサルボウの生息密度は、だんだん死により資源量が激減した昨年同時期(10月下旬～11月上旬)の7割程度(24個/m)と極めて低水準となっている。 地点別にみると、資源量は、東部(86個/m)が最も多く、次いで中部(36個/m)、南部(24個/m)、西部(15個/m)、中西部(7個/m)の順となっており、来年度漁期は東部地区以外、極めて厳しい状況が想定される。 [水産海洋・産場保全関係] ・水温は、10、11月は平年並、12月は平年より低めで変動した。 ・比重は、10、11、12月は平年並みで変動した。 [水産増養殖関係] ・マガキ養殖 産卵産卵と相まって8月中旬から9月下旬にかけて大量死が発生した後は、ホトギスガイ等新たな付着生物の大量付着もほとんどなく、安定した状況となっている。11月8日(火)の収量調査では、現存量は約70トンと推定された。 ・ノリ養殖 採苗が昨年より3日遅い10月16日から開始され、芽付きが厚付き傾向ではあるものの、順調なスタートとなった。その後、低水温傾向であることからアカガサレ病の被害は少なく、品質、生産量ともに良好で、秋芽網期は東中部では12月20日まで、西南部では12月30日まで生産された。西南部の最後の入札回を残し、現在までの生産状況は、生産枚数6.2億枚(前年比178%)、生産金額75.0億円(前年比208%)となった。 冷凍網期は、東中部地区の出荷が12月24日から開始され、冷凍戻りも良く低水温ながら順調に生長している。</p>	<p>○標識放流 ・クエ(12月に全長15cm、6.8千尾、県内3ヶ所)、オニオコゼ(全長7cm、1.8千尾、有明海) ○放流魚追跡調査 ・トラフグ、ホシガレイ、ヒラメ、アワビ、クエ他について追跡調査を実施 ○養殖魚類の育種技術開発研究事業 【ホシガレイ】 偽雄化処理魚の飼育を実施中(仔魚期にメチルテストステロン投与試験)。 【トラフグ】 代理親魚技術でクサフグから作出したトラフグ幼魚の中からYY型(超雄)トラフグ個体の出現を確認した。また、高成長、早熟等の優良雄親魚由来の種苗および天然雄由来の種苗(雌は全て同腹卵)を同一飼育条件下で飼育し、成長および成熟調査を実施した結果、各試験区で精巢の重量に明確な差異が認められたことから、早熟は雄に強く影響をうけることを明らかにした。 ○良質な種苗の生産技術開発研究事業 【カワハギ】 早期採卵に向けて親魚養成中(冬季加温) ○クロマグロの種苗生産に向けた飼養技術の高度化(プロジェクト研究) 【クロマグロ】 シロギス幼魚・親魚の継続飼育中。</p>	<p>10月から養殖クルマエビの出荷が開始された。今年は12月の在池量が少なかったため、単価が高めで推移した模様。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・10月30日、イラストマータグで標識したウナギ450尾(平均全長363mm)を放流し、その後、追跡調査を実施中 ・スジアラ種苗生産:約20,000尾(30～50mm)生産 ・サバヒー種苗生産:約220,000尾(40～50mm)生産 ・ヤコウガイ種苗生産:5,300個(31mm)を徳之島、沖永良部島へ放流</p>	<p>・平成23年8月に採苗し、育成したイワガキ稚貝のうち約700個(平均殻高41.4mm)を、平成24年2月に延岡市熊野江湾の(財)宮崎県水産振興協会の筏に移設し、水深の違い(1.5m、3m、4m)による成長、生残への影響について試験を行った(現在も継続中)。現在までの結果では、試験開始直後から5月までに減耗が見られたが、その後は安定し、夏季へい死も見られず、平成24年10月の時点では生残率77～80%、平均殻高83.9～88.1mmで、水深による大きな違いは見られなかった。</p>	<p>記載なし</p>	<p>記載なし</p>